

石井十次顕彰会の事業内容に施設（特に児童対象施設）への賛助金贈呈という項目があり昨年に続き2施設へ贈られた。

# 石井十次顕彰会だより

## 第2号

高鍋町中央公民館前庭に建つ「石井十次像」



財団法人 石井十次顕彰会



石井十次顕彰会より賛助金贈呈  
日向市 中心の里福祉作業所

「中心の里」の後藤松市代表へ顕彰会松田副理事長より賛助金が贈呈される。



石井十次顕彰会より賛助金贈呈  
静岡県浜岡町 ねむの木学園

「ねむの木学園」の宮城まり子園長へ顕彰会尾崎理事長より賛助金が贈呈される。

### 募金者報告 第二号

平成四年二月二十一日  
平成四年十二月十八日

#### 篤志寄附

- 高鍋町 内田力男様
- 長友逸郎様
- 宮崎太陽銀行高鍋支店様
- 加藤とめお様
- 弓削健吉様
- 山下公民館十七名様
- 馬場原公民館様
- 立正佼成会高鍋教会
- 教会長 久保田勝代様
- 立正佼成会高鍋教会
- 青年男子部様
- 高鍋 S S グループ様
- 太田利七様
- (有)寿石油様
- 塩田照男様
- 松浦シメ子様
- 杉田吉康様
- 永友徳幸様
- 児玉正見様
- 高鍋地区観光社交組合様
- (公益)阿部印刷様
- 匿名様
- 児湯農業協同組合様
- 児玉吹徳様
- 皆川雅之様

#### 宮崎市

- 野口逸三郎様
- 宮崎ガス(株)様
- 宮崎県農協中央会様
- (有)印刷センタークロダ様
- 山下春吉様
- 佐々木隆様
- 伊藤 周様
- 東海工業株式会社様
- 中武成信様
- 西村素一様
- 山口紀子様

#### 慶事寄附

- 高鍋町 アニメットタカナベ様
- 新富町 宮地歯科医院様

#### 忌明け寄附

- 高鍋町 故 武末治枝様
- 故 武末喜久治様
- 故 稻倉宗偉様
- 故 稻倉ハツ子様
- 故 児嶋城一郎様
- 故 児嶋登美様
- 故 上條政子様
- 故 上條勝久様
- 木城町 故 神奈川県 故 上條政子様
- 上條勝久様

#### あとがき

平成五年が、平和で充実した年になりますように皆様と共に願望したものです。  
「石井十次だより」第二号をお届けいたしますが、構成内容等不十分なところばかりですので、どうぞご意見ご指導よろしく願います。  
(編集係)

このたびは、多額のご寄付をいただき誠にありがとうございます。  
ございました。厚くお礼申し上げます。

発行者：石井十次顕彰会  
題字：宮崎県知事 松形祐堯  
印刷：街印刷センタークロダ  
発行日：平成5年1月30日





# 第一回石井十次賞

## 北海道家庭学校へ贈呈

平成四年十月一日「高鍋町民の日」に  
正賞「楯」と副賞が贈られた。



北海道家庭学校を第一回の石井十次賞として満場一致決まった喜びの報告をされる、「石井十次賞」選考委員長 福田垂穂氏（明治学院大学教授）



「石井十次賞」贈呈式  
町民多数のご参加を得て、第一回石井十次賞贈呈式典が、高鍋町中央公民館に於いて盛大に行われた。



石井十次顕彰会理事長尾崎一男より第一回受賞者・北海道家庭学校理事長 谷 昌恒氏へ賞状・正賞・副賞が手渡された。

# 石井十次賞選考委員会

— 東京都麹町会館にて —



「石井十次賞」  
正賞の楯  
(石井十次のブロンズ像と 茶臼原憲法)



- 板山賢治氏 (全国社会福祉協議会常務理事)
- 上村 一氏 (こどもの国協会理事長)
- 黒木武弘氏 (厚生事務次官)
- 宮城まり子氏 (ねむの木学園園長)
- 大熊由紀子氏 (朝日新聞社論説委員)
- 柳田宏明氏 (宮崎県社会福祉協議会 会長代理)
- 福田垂穂氏 (明治学院大学教授)



受賞者  
社会福祉法人  
北海道家庭学校  
理事長 谷 昌恒

大正三年、東京に家庭学校を創設した留岡幸助（岡山県出身の故人）が北海道上市別村の国有林一千ヘクタールの払い下げを受け、現在の北海道家庭学校を建設。非行の深みにはまった少年や家庭的に不幸な環境にあった児童たちを大自然の中で育てたい、との信念からだった。同八年には森の中に礼拝堂を建てるなど子供らに勤労体験のほか心の豊かさも教えた。

昭和四三年、社会福祉法人、戦中戦後は経済的理由などで経営危機に陥ったが、「一路到白頭」（頭が白髪になるまで目的に向かって進む）の創設時の精神で切り抜けた。

- 創設以来七八年間の卒業生は一、八八八人（平成三年現在）
- 特徴
  - (一) 七八年間にわたって大自然の生活を通して少年の自立更生事業に寄与している。
  - (二) 職員（三二人）と子供たち（現在八五人）が

起居を共にして、園芸や酪農、醸造、土木などの生産活動に従事。教育を受けながらこうした健康的な生活（良く働き、良く食べ、良く眠る）を大自然の中で実践しているのは全国でも例がない。

(三) 現在の敷地四三四ヘクタール。礼拝堂のほか七つの寮舎、講堂、博物館など三五棟ある。



大自然に抱かれ、シラカバやナラに囲まれた学校の本館と寮舎



教育の精神的基礎をつくる礼拝堂  
(大正8年に建てられた)





## 顕彰意見発表

平成四年四月十一日の石井十次生誕記念式典に於いて、高鍋町内の小学校、中学校、高等学校の児童生徒の代表の皆さんが「石井十次先生の顕彰意見発表」をされたものです。  
高鍋町内に小学校・中学校・高等学校各二校があり隔年毎に交代でおこなわれております。



高鍋町立高鍋東小学校

五年

二川みつる

### ■石井十次について

私が初めて、石井十次を知ったのは、二年生の時、朝の歌の時でした。

「村の祭りに、なわのおび、しめたる友をいたわりて……」で始まる歌でした。最初、その歌の意味がわからず、ただ歌っているだけという感じでした。でも五年生になった今考えると、大変な意味がありました。

一番は、十次が小さい時、村の祭りに行くので、お母さんがおってくれたつむぎのおびをしていきました。そして、祭りに出かけたら、自分の友達が、なわのおびをしているではありませんか。十次はかわいそうに思ったのでしょうか、お母さんが作って

くれたおびと、とりかえたのでした。私だったらそんな事はしらないと思います。お母さんが作ってくれた大切な物だし、どちらが得するかと考えてしまいます。それに、お母さんが、かわいそうです。でも十次のお母さんはおしいとは思わなかったと思います。それは、そんなとかが、得するとかの問題ではなく、友達を思うやさしい心を、大切にしながらだと思いました。十次もやさしいと思いました。お母さんも、ひろい心の人だと思いました。そして、二番は十次が三千人のお父さんお母さんのいない子供達をひきとり、育てたという事でした。ふつうの人では、なかなかできる事ではありません。それも、三千人でした。今の東小、全員の約三倍はいるのでした。十次は、お父さんお母さんのいない子のための人生だったと思います。そして三番は、西都の茶臼原を開拓して、自分たちで生活できるようにしたのです。開拓とは、人が住めるように山をくずしたり、道を作ったりすることで、ここでも人に何倍も苦労したと思います。

私にとって、昔の人である石井十次は、会いたくても会える人ではありません。本当はあって、つらかったことや悲しかったこと、うれしかったことや楽しかったこと、いろいろな事を聞いてみたかったです。でも、十次のしてきたことは、今でも残っているのです。自分の目でたしかめたいと思います。

私は、これから父の仕事で、この町に住んでいら

## 石井十次の業績を

### 顕彰するため

宮崎県総合文化公園に銅像が建立された。  
(平成四年七月九日除幕式挙行)

作者のことばより

遙かな天空を指し、子供たちに「夢」と「希望」そして「自立」を促し、明日に向かって伸びて行く姿を表現してみた。

(製作者 高鍋在住 田中 等氏)



れないかもしれません。でも、高鍋町の町で生まれ育ったことや、同じようにしていた、石井十次という人がいたことを忘れずになりたいと思います。そして、今、五年生の私たちも、石井十次のように得とかそんなとがではなく、こまっている友達がいたら、その人のために、助けてあげられる広い心をもつ自分になりたいと思います。  
四月十一日、石井十次さん、おたん生日、おめでとうございます。



登校・下校のとき石井十次のレリーフに一礼する子供たち  
(高鍋西小学校児童)



# 知ってるつもり

石井十次

平成四年九月二十三日放送さる



◆石井十次が孤児達と「折り」をしている場面のセットづくり



◆大阪愛染橋下の浮浪者の居る場面も、ここ高鍋でセットし撮影された

高鍋東中学校生徒会 代表

二年

武末 哲治



## ■石井十次先生の教えについて

石井十次先生は、私たちの住む町、高鍋町出身の偉大な人物です。石井十次先生は、幼少の頃から心が広く優しい人物であり、成人すると、恵まれない孤児たちを救済するために、「医者になろう！」という自分の夢までも断念し、貧困その他さまざまな困難を乗り越えその一生を孤児たちのために捧げました。

この、献身的な石井十次先生の生きざまは、私たちいろいろな教訓を与えてくれます。

現在、オゾン層破壊、森林伐採、温暖化や砂漠化などの地球的規模の環境破壊が大きな問題になっています。食糧不足に悩み、餓死していく多くのアフリカの子どもたち、絶滅していく動植物などはこれら環境破壊の犠牲者だと言えるでしょう。また、高齢化社会も進行し、二十一世紀の社会はますます生きていくことが困難になっていくでしょう。

しかしながら、これからの時代こそ、人間がお互

## ■テレビを見て色々と反響がありました。

石井記念友愛社の子供達から寄せられた感想文の一部を紹介します。

小学五年 高野 久美

石井先生は、とても優しい人だなと思いました。医者になるか孤児のために働くかと迷って、孤児のために働くことを決めました。私は、とても感動しました。それと、一人の孤児が自分のお金を、孤児のためにと差し出しましたが、そこもその女の子の優しい気持ちが伝わってきました。

中学二年 山口 匡和

石井十次先生の人生は、いろいろな苦労があったと言ったことが分かった。医学の道を捨て、孤児救済の道を選んだということは知っていたけれども、その道を選ぶまでに、いろいろな問題にぶつかって、苦労の一生であったと分かった。特に牢屋に入れられた時はつらかったと思います。そんな苦労をしたのに、孤児救済の道を選んだ石井十次先生は、偉大な人だなとつくづく思いました。また、石井十次先生のことがかくわしく分かり、プラスになることばかりでした。僕が石井十次先生の立場だったら、医者之道を選んだと思います。

いに思いやりの心を持ちながら助け合って生きていくことが、より重要視されるべきではないでしょうか、そして、このような、困難な時代を生き抜き乗り越えていかなければならない私たちにとって、弱いものを絶えず思いやり、献身的な愛をもって孤児救済につくした石井十次先生の生きざまや業績を学びそれを実践していくことは、とても大切なことです。

東中生徒会では、昨年度ユニセフ委員会を設置し、募金活動を行いました。最初は、「みんなが協力してくれるだろうか。」とか、「本当にお金が集まるだろうか。」とかいう不安でいっぱいでした。ところが実際に活動が始まると、私たちの不安もよそに、ほとんどの生徒が積極的に協力してくれ、四万円以上のお金を集めることができました。石井十次先生と同じ高鍋町に住む中学生として、今年度もこの募金活動を積極的に行って石井十次先生の精神を学校全体に広めていきたいと思えます。また、募金活動以外にも恵まれない人たちに対する奉仕活動などの取組を増やしていきたいと思えます。そして、自分自身も石井十次先生の生きざまを胸に、自分のことよりも他人を思いやることのできる立派な人間になる努力をしつづけていきたいです。





石井十次先生がどの様な苦しい人生を歩んできたかが分かった。今までは、ただ石井十次先生がいたと、かるがるしく考えていた人が多かったと思う。

三、〇〇人以上の子供を育て上げるといことは、誰もができることではない。自分の夢を投げ捨ててまでそのような事をする人はいないでしょう。色々な失敗を積み重ねて、開けてきた道が医者になると言う事でしたが、医者にもならず、子供たちのために人生を尽くした石井十次先生は素晴らしい。テレビのなかのほとんどの人が石井十次先生の名前を知らなかった。私はすごく残念だったけど、今度は私達が、石井十次先生の名を広めて、よりたくさんの人に石井十次先生を知ってもらわなければなりません。この友愛社にいるこ

とに誇りをもつていこうと思います。またこれからもっと、石井十次先生のことについて知りたいと思います。



岡山孤児院から移築され、現在石井記念友愛社内に建つ「静養館」(石井十次先生の生活の場であり、この家の一室で永眠された)



■石井十次について考えること

石井十次と同時代に活躍した人物として、同じ宮崎出身の小村寿太郎がいます。小村寿太郎はポーツマス条約を調印した人物として有名ですが両者とも明治時代の日本の発展に貢献した人物に他なりません。しかしその貢献のしかたは非常に対照的なものがありました。なぜならば、小村寿太郎が政治という表舞台で活躍した人物であったのに対して、石井十次は明治時代の日本の発展を陰で支えた人物であったからです。

石井十次は「孤児の父」と呼ばれるように孤児教育に生涯を捧げた人物でしたが、彼が生涯に亘って育てあげた孤児の数は一体どのくらいになったでしょうか。おそらく何万人もの数に及んだのではないかと思います。もしかすると飢えて幼い命を落としかたかもしれない、悪い道に進んだかもしれない孤児たちを育てあげて、明治時代の日本の農業や産業を支える原動力につなげていったのですから、まさに日本の発展を陰で支えた人物であったと言えるわけです。また、この石井十次の遺志は後世に引継がれて現在にまで至っているのですから、現在までの日

高校一年 坂本武士

石井十次という人は、なんとすごい人かと思った。もちろんなしとげた事もすごいが、人生の区切りとどうか分岐点で悟っているところである。自分のやるべきことはこれじゃなくてあれだというふうに、すぐ考え実行するところである。いろいろな苦難のたびに、考え悩み、乗り越えていく。三友館の生活手帳にマラソンコースが載っているが、十次はとてつもないコースを進んだのだ。もちろん人間は、楽なコースを選ぶものである。十次という人はとてつもないコースを進んだから、あれだけ立派な普通の人ができないことができたのだと思う。やはり人間は、苦勞してこそ大きくなるものだと、石井十次先生の一生を見てそう感じた。



「石井十次資料館」  
石井記念友愛社の庭に建っており「日記」や貴重な遺品を拝見することができる



明倫堂跡碑  
藩校明倫堂の建っていた場所で、現在宮崎県立高鍋農業高等学校の敷地内にひっそりと建っている  
明治維新後高鍋学校となり石井十次もここで学んだ

本の発展を支えてきた人物であったと言っても過言ではないと思います。  
石井十次がどういっかけて孤児教育に生涯を捧げようと決心したのかよくわかりませんが、孤児を育てあげることが、相当な苦勞があったらうということなどが想像されます。経済的な問題もあったでしょうが、何万人もの孤児たちに愛情を与え続けるということは、並大抵のことではなかったと思います。大きな志があったからこそ出来たことだと思います。  
私は、郷土が生んだこの石井十次を誇りに思うとともに、現在の日本の発展が、石井十次のような大きな志を持った人々によって支えられてきたということに肝に命じていたいと思います。





## 第二回石井十次顕彰会のつどい

■平成四年二月八日 ■高鍋町中央公民館ホール

- ・児童劇  
高鍋西小学校六年生全員出演
- ・板山賢治氏講演  
演題「人はひとりでは生きられない」

石井十次の生家がすぐ近くにある高鍋町立高鍋西小学校では「石井十次先生をしのぶ会」を毎年全校児童が参加して行ない、伝統的に六年生全員参加による「石井十次の劇」を披露している。平成四年は高鍋町中央公民館でも上演し、参加した多くの町民に感銘を与えた。



劇のフィナーレ

手前は合唱組、ステージは演劇組



広辞苑の中に数少ない人物の一人として、石井十次の記載がある等々と、講演する板山賢治氏

## 石井十次年譜

### その二

(明治三十二年まで)

年号	事 曆	年齢
明治二十七年	三回に別つて院児を日向茶臼原に移し、開墾に着手す 鍛冶部を設く	三十歳
〃	活版部に製本部を付設す 不就労児童救済会を設立す 大工部を設く	
〃	労働自活の方針を採る	三十一歳
二十八年	十次コレラに罹る、半月後全治退院	
〃	夫人品子永眠(九月十二日)	
二十九年	岡山孤児院新報第一号発行	三十二歳
〃	日州活版所を高鍋に設く	
三十年	十年間岡山孤児院に借用せし三友寺を明け渡す 孤児院精米所を高鍋秋原に設く 日向移住の幼年組に赤痢発生、患者二十四名に上る	三十三歳
〃	米国人ピンリングス女史金七百九拾円を寄贈す	
〃	私立岡山孤児院尋常高等小学校設立	
〃	音楽幻燈隊を編成して寄付募集を始む、初めて尾道で開会す	三十四歳
三十二年	五月より賛助員募集す 在清国セルデン氏より金六百元を寄贈 東京神田青年会館に於いて第一回東京慈善音楽会を開く 海外幻燈隊アメリカなどを周る	三十五歳

(以下は次号へ)

## 孤児の父 「石井十次」

### アラカルト

#### 石井十次先生と周囲の人々

先般行われた第一回「石井十次賞」で受賞された「北海道家庭学校」の創立者である留岡幸助氏は「一人を亡ぼすこと、これより大きな社会の損失はなく、一人を生かすこと、これより大きな社会の利益はない」と。このことは、石井十次先生の「心」に通じるものである。 さて、

「夢かける」(大原美術館の六十年)と題して岡山の地方紙である山陽新聞の特集記事(十二回連載)を同市在住の某氏から送付して戴いたが、その中の石井十次先生に関する箇所を紹介します。

#### 生涯通じ厚い信頼

岡山孤児院は一八八七年(明治二十年)岡山甲種医学校を卒業したばかりの十次が、貧しい女性の子供一人を引きとったのを緒に創設。岡山市門田屋敷を孤児院本部に、東京・大阪などにも事務所を配置、アメリカ人牧師らの紹介で、海外にまで知られる孤児院となるが・・・ (中略)

十次は大正三年一月三十日永眠。その後、銅像除幕式に参列した倉紡社長の大原孫三郎は、「私のことを、本当にわかってくれたのは、天と石井さん だけだった」と  
十次の像の前で、じっとたたずんでいた。(次号へ)



石井十次の顕彰碑(孤児の父)

平成4年高鍋ライオンズクラブ各位の奉仕により、改修とライトアップがなされ整備された(JR高鍋駅ホーム東側)

